

がんばった人に

平成 18 年度能登町スポーツ表彰式

スポーツの振興を図るため、県大会以上の大会において優秀な成績を収めた人やスポーツの振興に大きな貢献があった人を表彰する「平成18年度能登町スポーツ表彰式」が、2月23日に能都庁舎4階ホールで行われました。
式典には、平成18年1月から12月に行われたスポーツの大会で優秀な成績を収めた約90人が表彰を受けました。

能登町スポーツ賞

全国大会以上に出場し、優勝またはこれに準ずる成績を収めた個人や団体

- 二田早智子 (能都中)
- 小谷内良華 (能都中)
- 全国中学校ソフトテニス大会 個人ダブルス 準優勝

佐々木美和 (宇出津小)

- 山瀬侑希 (宇出津小)
- 全日本小学生ソフトテニス選手権大会 個人ダブルス 優勝

尾上真耶 (真脇小)

- 岩崎加奈 (真脇小)
- 全日本小学生ソフトテニス選手権大会 団体 準優勝

池田浩太 (能登青翔高)

全国高等学校総合体育大会

アーチェリー競技個人 準優勝

菊田泰子 (飯田高)

全国高等学校女子ウエイトリフティング 競技選手権大会個人58kg級 準優勝

竹内志津 (神戸松蔭女子学院大)

全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会個人 優勝

仙福剛悠 (高田商業高)

全国高等学校総合体育大会

ソフトテニス競技団体 優勝

菊田裕子 (早稲田大)

全日本大学対抗女子ウエイトリフティング選手権大会個人75kg級 優勝

森田裕庫 (ウエイトリフティング協会)

秋季国民体育大会ウエイトリフティング 競技個人62kg級 準優勝

能登町スポーツ奨励賞

県大会以上の規模の大会に出場し、優勝またはこれに準ずる成績を収めた個人や団体および国民体育大会に出場した個人

桑村颯汰 (松波小)

石川県相撲選手権大会小学校低学年の部 優勝

山本恵未 (柳田小)

石川県小学校陸上大会女子走高跳 優勝

西 かえで (柳田小)

石川県クロスカントリー選手権大会 小学5年の部 優勝

石田夏那 (柳田小)

石川県クロスカントリー選手権大会 小学1年の部 優勝

山下藍里 (鵜川小)

石川県小学生学年別ソフトテニスインドア大会5年の部個人ダブルス 優勝

大屋健一 (鵜川小)

石川県小学生学年別ソフトテニスインドア大会5年の部個人ダブルス 優勝

下島雅大 (鵜川小)

清水寛生 (鵜川小)

石川県小学生学年別ソフトテニス大会 5年の部個人ダブルス 優勝

橋本 遥 (鵜川小)

石川県小学生学年別ソフトテニス大会 4年の部個人ダブルス 優勝

中田依緒里 (鵜川小)

石川県中学校選抜ソフトテニス大会

紺谷智仁 (鵜川中)

坂下昌博 (鵜川中)

個人ダブルス 優勝

道下直人 (鵜川中)

石川県中学校ソフトテニス大会 個人ダブルス 優勝

堂野貴寛 (鵜川中)

石川県中学校ソフトテニス大会 個人ダブルス 優勝

谷上 蛭 (飯田高)

北信越高等学校ウエイトリフティング 競技選手権大会女子+75kg級 優勝

田中千晶 (飯田高)

石川県高等学校ソフトテニス新人大会 個人ダブルス 優勝

藤本優香 (飯田高)

石川県高等学校ソフトテニス大会 個人ダブルス 優勝

板谷浩史 (金沢高)

全国高等学校野球選手権大会石川大会 団体優勝

寺下祐樹 (金沢市立工業高)

久山 毅 (金沢市立工業高)

石川県高等学校相撲選手権大会団体の部 優勝

田中 舞 (能登青翔高)

石川県高等学校総合体育大会

アーチェリー競技女子個人 優勝

大井 凌 (能登青翔高)

石川県高等学校新人体育大会

アーチェリー競技男子個人 優勝

佐野隆浩 (金沢星稜大)

県民体育大会陸上競技男子走高跳 優勝

菊田克己 (ウエイトリフティング協会)

県民体育大会ウエイトリフティング 個人85kg級 優勝

駒寄真弓 (アーチェリー協会)

県民体育大会アーチェリー競技 個人 優勝

【秋季国民体育大会出場】

相撲競技

三瀬功太 (金沢市立工業高)

寺下隆浩 (東洋大)

坂下昭徳 (相撲連盟)

ソフトテニス競技

島中歩美 (能都北辰高)

岡川 光 (能都北辰高)

島中愛美 (能都北辰高)

野口茉衣 (能都北辰高)

寺下将司 (小松市立高)

吉岡翔太 (日本体育大)

川口晶子 (早稲田大)

川原智恵子 (日本体育大)

新平浩之 (ニッコー)

高山泰英 (長谷川スポーツ)

高山知之 (兼六クラブ)

バスケットボール競技

小宿 咲 (津幡高)

陸上競技 (棒高跳)

佐小田孝一 (珠洲実業高)

【団体】

小木クラブ (小木小)

谷口翔太、牧 恭祐

川端久士、川本雅人

曾良祐貴、後田隆樹

鍵主翔伍、坂東 祥

山市宗広、広瀬良輝

中町幸司、曾良順平

蟹 暁、林 寛文

春の全国小学生ドッジボール選手権

石川県大会 優勝

能都中学校ソフトテニス部

二田早智子、小谷内良華

佐々木真子、岩本紗緒里

奥 亜紗日、紅屋来美

蔵 理恵子、谷内 萌

寺越由紀子

北信越中学校総合体育大会ソフトテニス

競技・石川県中学校選抜インドアソフト

テニス大会 優勝

鵜川中学校男子ソフトテニス部

道下直人、堂野貴寛

紺谷智仁、坂下昌博

上端達也、馬場准樹

道地亮太、清水基善

北信越中学校総合体育大会

ソフトテニス競技 優勝

能登青翔高校アーチェリー部

田中 舞、元井優貴

三好伶奈

石川県高等学校総合体育大会

アーチェリー競技 優勝

能都北辰高校女子ソフトテニス部

島中歩美、岡川 光

野口百香、木下満帆子

野口茉衣、島中愛美

丸谷幸代、島中さゆり

中町美香、濱野由香

石川県高等学校総合体育大会ソフトテニ

ス競技・石川県高校新人体育大会ソフト

テニス競技・石川県高校選抜ソフトテニ

ス大会 優勝

能都北辰高校男子ソフトテニス部

高宮大輔、坪根俊幸

青木宏義、柳本篤二

川端光明、下島慎也

灰外陵平

石川県高校選抜ソフトテニス大会 優勝

能登町スポーツ振興賞

町内のスポーツの健全な普及発展に著しく貢献した個人、団体、企業

竹橋 昭 (ゲートボール協会)

浜 理一郎 (バスケットボール協会)



7. 給与水準 (ラスパイレス指数※)

区分	17年度
能登町	88.8
県内町	87.4
全国町村	93.5

※国家公務員の俸給月額を100とした場合の地方公務員一般行政職の給料の水準を示したものである

8. 部門別職員数の状況 (4月1日現在)

区分		職員数		前年比
		17年度	18年度	
一般行政	議会	5	5	0
	総務	100	93	△7
	税務	19	19	0
	労働	2	2	0
	農林水産	24	25	1
	商工	13	14	1
	土木	20	21	1
	民生	96	99	3
	衛生	31	29	△2
	小計	310	307	△3
特別行政	教育	46	47	1
公営企業等会計	病院	173	172	△1
	水道	16	16	0
	下水道	10	10	0
	その他	22	18	△4
	小計	221	216	△5
合計		577	570	△7

9. 適正化計画

①適正な定員管理

徹底したスクラップ・アンド・ビルドにより、総数の増加を極力抑制するなかで、政策の変化や業務量の変化に応じた職員の適正配置に努めています。

「定員適正化計画」による計画では、10年間で140人を削減する目標を掲げています。

②定員適正化手法の概要

現在、職員採用の抑制により、職員の削減を行っていますが、合併のメリットを活かした行政改革大綱をもとに、既定業務に係る定員の徹底した見直しを行い、政策の変化や業務量の変化に応じた職員の適正配置に努め、定員の管理適正化を推進します。

5-①期末、勤勉手当 (18年度)

区分	期末手当	勤勉手当
支給率	6月期	1.12月分
	12月期	1.28月分
	計	2.40月分
加算措置	職制上の段階、職務の級などによる	

5-②退職手当

区分	自己都合	勤奨定年
支給率	勤続20年	21.00月分
	勤続25年	33.75月分
	勤続35年	47.50月分
	最高限度	59.28月分
平均支給額	953千円	16,905千円
加算措置	定年前早期退職特別措置	

5-③扶養・住居・通勤手当 国の基準と同じ

5-④時間外勤務手当 (一般会計)

17年度	支給総額	20,880千円
	職員1人当たり支給年額	193千円

5-⑤特殊勤務手当 (17年度)

区分	全職種
職員全体に占める手当支給職員の割合	38.1%
支給対象職員1人当たり平均支給年額	546,221円
手当の種類(手当数)	12種類

6. 特別職の報酬等の状況 (18年度)

区分	月額	期末手当
給料	町長	820,000円
	助役	590,000円
	収入役	540,000円
報酬	議長	275,000円
	副議長	245,000円
	議員	225,000円
	計	2.31月

(注) 特別職の報酬などの金額は、学識経験者などで構成される特別報酬等審議会の答申に基づき、条例で定められています。

町の職員は、町民のみなさんの快適な暮らしのため、税務、福祉、保健、農林水産、土木、防災、教育などあらゆる分野の仕事に携わりながら、より住みよい町づくりの実現にむけて働いています。

町職員の給与は、人事院勧告に基づいて行われる国家公務員の給与に準じて条例案が作られ、町議会の議決を経て支給されています。

行政の透明性を確保し、町民のみなさんに一層のご理解をいただくため、職員に支給している給与等のあらましをお知らせします。

町職員の
給与等の
あらましの

1. 人件費の状況 (普通会計決算)

区分	住民基本台帳人口 (17年度末)	歳出額A (千円)	実質収支 (千円)	人件費B (千円)	人件費率 B/A	16年度の 人件費率
17年度	23,158人	18,075,298	290,801	2,748,345	15.2%	17.0%

2. 職員給与費の状況 (普通会計決算)

区分	職員数 A	給与費(職員手当には退職手当を含まない)				一人当たり給与費 B/A
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
17年度	349人	1,288,022千円	135,115千円	519,198千円	1,942,335千円	5,565千円

3. 職員の初任給月額、平均給料月額および平均年齢の状況 (18年4月1日現在)

区分		初任給月額			平均給与月額	平均年齢
		町	県	国		
一般行政職	大学卒	170,200円	170,200円	170,200円	287,400円	38歳11月
	高校卒	138,400円	138,400円	138,400円	362,000円	49歳7月

4. 一般行政職の級別職員数の状況 (18年4月1日現在)

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級
職名	主事補 技師補	主事 技師	主幹 係長 主査	課長補佐 主幹	課長 課参事	町参事 課長
職員数	31人	38人	96人	64人	20人	28人
構成比	11.2%	13.7%	34.7%	23.1%	7.2%	10.1%

(注) 能登町職員の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数

5. 職員手当の状況

職員に支給される主な手当は次のようなものがあります。

- ・期末、勤勉手当…平成18年度は、一般職▲20%、特別職▲30%の減額を実施
- ・退職手当…勤務した年数に応じて、退職時の給料月額に表に示す率を乗じた額を支給
- ・時間外勤務手当…正規の勤務時間を超えて勤務した職員に支給
- ・特殊勤務手当…著しく危険、不快、困難な勤務、そのほか著しく特殊な勤務に従事する職員に支給



アマメハギ保存会会長
あまの 登さん
天野 (71歳・秋吉)

ア マメハギとは、立春前夜、節分の夜に子どもたちによって行われる伝統行事。子どもたちは、自分で作った鬼の面を着け、真前垂れをあて、サイケと呼ばれる桶と竹で作った包丁を手に家々をまわる。その際「あまめー」「怠け者はおらんか」などと子どもたちに聞かせ、冬の間の怠けた心を戒める。

秋吉地区では、この大切な行事を後世に残そうと、昭和44年に「アマメハギ保存会」を結成し、保存・伝承活動を行っている。

この保存会の会長を28年間務めているのが、秋吉の天野登さんだ。天野さんは、「自分が子どもときのアマメハギは本当に楽しかった。今の子どもたちにもアマメハギを楽しんで欲しい」と話す。

アマメハギは昭和54年2月3日、旧門前町皆月地区に伝わる「あまめはぎ」と、輪島市に伝わる「面様年頭」と合わせて「能登のアマメハギ」として国指定重要無形民俗文化財に指定された。門前・輪島の行事は1月に行われるが、アマメハギは節分の日、2月3日に行われる。

「節分は季節の分かれ目。アマメハギは季節が変わってもいつまでも怠けていてはダメやと神様が教えてくれる行事」と語る。天野さんは「鬼はこわいものではない。能登はやさしや土までもの言葉のとおり、鬼もまたやさしい」と感じている。

国指定文化財となり、アマメハギが新

能登はやさしや 鬼までも

間、テレビ、雑誌などのメディアに取り上げられるようになると、撮影に訪れるカメラマンも年々増えてきた。「カメラマンに色々注文を付けられる子どもたちがかわいそうで、取材を断るときもある」という。「アマメハギは芸能ではなく、伝統行事として残していくことが大切」との思いからだ。

天野さんの保存伝承活動は精力的だ。自宅の一室をプチミュージアム「奥能登トリビア蔵あまめはぎ館」とし、アマメハギで実際に使われる道具や天野さん自身が撮影した昔の写真などを展示している。「アマメハギに興味をもって訪れてくれる人に、来て良かったと感動してもらいたい」という天野さんは、71歳ながらもパソコンを駆使してプロジェクターで説明もする。

「自分の活動が少しでも地域の活性化に繋がればと思っている」という天野さんは、町のボランティアガイドとして、グリーンツーリズム インストラクターとしての活動も行っている。「能登半島のこれからはグリーンツーリズム、つまり体験してもらって感動してもらおうことが大切になる」と考えている。

「能登の文化をアピールするためには『光』と『音』が大切。キリコ祭りもアマメハギも光と音の文化といえる」と話す天野さん。

鬼の面の小さな穴から見える能登町の未来は、きっと光り輝いているのではないだろうか。

自衛隊入隊予定者激励会
春からは自衛官として

国のため、国民のために厳しい訓練と任務にあたる自衛隊。4月から自衛隊に入隊を予定している若者の激励会が2月13日に能都庁舎で行われました。

激励会には、入隊予定の4人のうち3人が出席しました。持木町長は「防衛庁から防衛省に変わり自衛隊の役割は大きくなっています。国を守る最前線として任務を果たしてください」と3人を激励しました。これを受け、入隊予定者を代表して中野成仁さん（柿生）が「入隊後は国民の期待に応えられるよう訓練に励みます」と決意を述べました。



「がんばります」町長と握手を交わす入隊予定者の3人



寺院を前に放水する消防団員

文化財火災防御訓練
地域の宝物を守れ！

1月26日の「文化財防火デー」に合わせた文化財火災防御訓練が1月21日に鶴川の菅原神社、28日に上町の徳宝寺で行われました。

徳宝寺には、天然記念物のケヤキなど文化財が2点あります。本堂から火災が発生したという想定で、消防署柳田分署、上町分団、上町分団斉和部が訓練を実施しました。消防署員、消防団員らは、防火水槽からすばやくホースをつなぎ、放水を行いました。訓練後、住職の横山さんは「今後、より一層防火意識を持っていきたい」と話していました。

195人を代表して宣誓する山瀬健也さん



立志の集い
志をもち、自分らしく生きる

志を立て、自分が望む未来へ向かって努力することを誓う「立志の集い」が2月15日に能都庁舎で行われ、町内の中学2年生195人が集まりました。式では、持木町長が「前途あるみなさんのこれからの活躍に期待します」と激励の言葉を贈り、生徒代表の山瀬健也さん（柳田中）が「どんな困難にも負けない根性を持ち、自分らしく生きていきます」と誓いの言葉を述べました。この後、大箱地内にアトリエを構えた抒情書家、室谷一柗さん・朱琴さんによる講演が行われました。室谷さんは生徒たちに、志をもつことの大切さを訴えました。

河ヶ谷ミソメ窯跡記者発表
珠洲焼の歴史に迫る発掘

平安時代末期から室町時代後半にかけて流通したとされる「珠洲焼」は珠洲市と内浦地区だけで生産されていたと考えられています。町では、今年度に行延地区と河ヶ谷地区の2カ所で窯跡の発掘調査を行いました。今回、8月の行延に続き、河ヶ谷の窯跡が2月14日に公開されました。この窯跡は、鎌倉時代前半に操業されていたものと判明しました。珠洲焼の中では古い段階のもので検出例も少ないため、この時期の窯の構造や珠洲焼生産のあり方などを考察する資料として、とても貴重な発掘となりました。



発掘された窯跡について説明する可児学芸員

起舟祭
豊漁を祈り、各地で起舟祭

▶七見の中田さんの家では、乗組員をはじめ親戚や地域の人が集まり、今年の豊漁と海の安全を祈願しました

▼宇出津大敷では、恵比寿様に大漁を祈願し、「どどいつ」に合わせて大盃を飲み回します



起舟は、旧暦の正月にあたる2月11日に行われる漁師の伝統行事です。舟の仕事始めを意味し、昔は正月前後に休漁し、浜に揚げてうつぶせにしていた舟を起こして漁に出ていることが語源といわれています。

町内各地で行われる起舟の方法はさまざまですが、一般的には、網元が乗組員らを集め、海の神様である金比羅様や恵比須様に今年の豊漁と安全を祈願し、新鮮な魚料理でもてなします。

また、この日は各地の漁船に色とりどりの大漁旗が掲げられます。漁師町、港町ならではの伝統行事であるこの起舟は、自然を相手にする漁師が神様を大切にすることを忘れないための大切な行事となっています。

チュミボーイズ施設慰問
インドネシアの歌で交流

石川県漁業協同組合小木支所所属のインドネシア漁業研修生バンド「チュミボーイズ」は、イカ釣漁が休漁となる1月から3月にかけて施設の慰問などの活動を行い、地域の人との交流を深めています。

今回メンバーが入れ替わり、新たに結成されたチュミボーイズが1月30日に小木デイサービスセンターを慰問しました。インドネシアの正装であるパティックと呼ばれる服に身を包んだ研修生は、インドネシアや日本の曲など7曲を披露し、お年寄りとの交流しました。



ポチョポチョというダンスを披露するチュミボーイズ

自分が選んだ土器を濡らし、紙に密着させる参加者



真脇遺跡体験館で拓本作り
好きな模様の土器を手に

1月28日、真脇縄文館で新しく考案された体験メニューに高倉地区の親子約20人が挑戦しました。考案されたメニューは、遺跡公園内で採取されたシイの実を使ったケーキ作りと縄文土器を使った拓本下敷き作りの2つです。ケーキ作りはシイの木の実が実る季節限定で、きなこ味と黒砂糖味の2種類のケーキを作りました。拓本作りは、発掘調査で実際に行われている作業をアレンジしたもので、土器に紙を密着させ、浮かび上がった模様に好みの色を付けるものです。参加者は、自分の好きな模様の土器を手に取り、真剣に作業をしていました。